

ず。とつづけたいお米作り

八本松小学校 三年 山口 雄大

ぼくは毎年、お父さんの実家のお米作りの
お手伝いをしています。ぼくがお米作りの中
で一番好きのところはいねかりで、コンバイ
ンのいねをかる動きや、お米を出すところの
動きを見るのが好きだからです。

小さいころの写しんには、ぼくがコンバイ
ンにのっている写しんや、おじいちゃんとい
ねかりをしている写しん、お父さんと田うえ

きで田うえをしている写しんなどがあります。
それを見てお母さんやおばあちゃんが、
「雄大、かわいいね。本当に小さいころから
田んぼのお手伝いをしていてすごいね。」
と言ってくれます。

さいしは、お父さんにつれられて田んぼ
に行くだけだったんだろうけれど、ぼくがの
り物のことが好きになっただけからは、お父さん
の実家に行ったら、トラクターやコンバイン
を近くで見ることができるので、ぼくもいっ

しよに行きたいと思うようになって、田んぼのお手伝いをするようになっていました。

田んぼのお手伝いは楽しいけれど、大へんなこともあります。田うえの前には、けいふんをまいて田んぼをすいたり、田うえをしたらぎっ、草をかたり、ぼくが一番好きないねかりの時に田んぼがぐちぐちのところはコンバインがはまってしまっただことがあったので、気をつけていねがりをしてはいけません。大へんなことをのりこえてできたお

米を食べた時には、やっぱりぼくたちが作ったお米は一番おいしいなと思います。

ぼくはこれからもおいしいお米が食べたいので、大人になってもずっとお米作りをつづけたいです。そして、ぼくの小さいころの写しんを、しょう来ぼくの子どもに見せて、お父さんはこんな小さいころからお米作りのお手伝いをしていたんだよというのを、いつか子どもに話したいです。